

授業改善書

科目名	英語（見て聴く英語）
担当者	染谷昌弘

授業の概要

タイトルにある通り、基本的には英語を見て聴く授業です。The World Heritage（世界遺産）に関するDVDを観ながら、異文化に関する総合的な理解を高めるとともに、テキストにある様々な問題を解くことによって、Listening, Reading, Speaking, Writingのいわゆる英語の4技能を磨くことがこの授業の目的です。

授業の問題点

リスニング力の養成については、ノーマルスピードの音声を聞き取ることができるようになるには授業内だけの練習では限界があるので、普段から英語音声を聴く習慣を身に付けさせることが肝要です。映像と音声の関連性から内容を推量する能力も同様で、普段から映画などの英語音声に興味を持ち、積極的に楽しくそれに接するように促す必要があります。授業中においては、ペアをつくりリスニング箇所を音読させたり、リスニング箇所を細かく切って聞き取りやすくしたりと今年度も若干の工夫をしたつもりだが、さらなる工夫を考慮する必要がある。異文化に対する理解と関心を育成することに関しては、課ごとのテーマに関して、議論させたり、発表させたりするような発展的な活動をさせる時間が、コロナの影響もあり、今年度は全く取れなかった。このことは、引き続き、今後の授業の課題となる。

学生の授業満足度

「授業の内容はあなたにとってえるところのあるものでしたか」については(4.08)、「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」については(4.17)とほぼ平均並か若干少なめの数字となっている。今後も学生自身が満足感を覚えるような授業展開を模索するつもりである。

授業改善の課題と方策

今後も引き続き、課ごとに小テストを行い、基本的な英語問題の理解と定着に努めるように促す。さらに、授業以外でも、普段からリスニングなど実用の英語に触れることを習慣とするように指示する。その他、DVDの内容の理解を要点を絞って簡潔に解説することで、時間の節約をはかりたい。そのために、DVDのスク립ト原稿を配布して、読解をすることで、リスニングの大きな援助になるように工夫する。また、内容の理解の効率を上げることによって、テキストの趣旨に沿った課題の議論や研究発表など、さらに発展的な課題に取り組む時間が生まれるようにする。このことに関しては、依然として大いに改善の余地があるようだ。今後とも学生との意思疎通をはかりながら、おもしろいと感じてもらえる授業運営をはかり、それが、英語の習熟度を高める助けとなる、そのような授業を目指したい。

その他

授業改善書